



Title	懐徳 第51号 彙報 / 奥付
Author(s)	
Citation	懐徳. 1982, 51, p. 44-48
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90604
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

彙報

(記念会彙報)

事業報告(昭和五五年度)

。記念祭典

一〇月一三日(月)午後一時より、適塾にて。

(記念講演)

木村兼康堂の画事—大阪画壇の形成—

大阪大学教授 武田 恒夫

。秋季講座(第六一回)

一〇月二〇日(月)〜二五日(土)。

大阪大学文学部と共催。於住友中之島ビル大阪府民文化室
会議室。月々金は午後五時半より、土は三時半より。聴講
者延三三六名。

大谷探険隊—シルクロードを

調査した最初の日本人

大阪大学教授 山田 信夫

仏教美術の東漸

大阪大学助教授 肥塚 隆

契沖をめぐる人々

大阪大学助教授 信多 純一

京大坂の地図と景観図

大阪大学教授 矢守 一彦

音楽における古典の意味

大阪大学教授 谷村 晃

ネパール紀行

大阪大学名誉教授 伴 忠康

(昭和五六年度)

。春季講座(第六二回)

五月二五日(月)〜三〇日(土)。

大阪大学文学部と共催。於大阪府民文化室会議室。月々
は午後五時半、土は三時半より。聴講者延五三三五名。

日本文化と道教

京都大学教授 福永 光司

文学としての「観無量寿経」

大阪大学教授 黒川 洋一

和漢薬と健康

大阪大学総長 山村 雄一

孫文と日本

関西大学教授 山口 一郎

現代中国を知るために

大阪外国語大学学長 伊地智善継

懷徳堂をめぐる科学者たち

大阪大学教授 芝 哲夫

。記念祭典

一〇月二六日(月)午後二時二〇分より、適塾にて。

。秋季講座(第六三回)

一一月四日(水)〜六日(金)、九日(月)〜二日(水)。

大阪大学文学部・大阪府立文化情報センターと共催。於住
友中之島ビル大阪府立文化情報センター。午後五時半よ
り。聴講者延二二〇名。

明清時代の書院について

京都大学講師 小野 和子

懷徳堂の教育と旧中国の教育

名古屋大学助教授 加地 伸行

懷徳堂の学問の伝播

兵庫教育大学教授 末中 哲夫

北宋士大夫の人間像

京都市立芸術大学名誉教授 中田勇次郎

産業革命を生きる

大阪大学助教授 川北 稔

—工業化初期イギリスの家族と生活—

京都大学助教授 川北 稔

宋代の出版文化

京都大学教授 笠沙 雅章

(昭和五十七年度)

。春季講座(第六十四回)

五月二十四日(月)～二十九日(土)。

大阪大学文学部・大阪府立文化情報センターと共催。於府立文化情報センター。月々金は午後六時半、土は二時より。今回より往復はがきによる申し込み制(先着順)。聴講者延約一〇五〇名。

〈大阪の歴史と人物〉

高山右近の生きた時代

大阪大学助教授 脇田 修

淀屋辰五郎と町人社会

神戸女子大学講師 今井 修平

近松と義太夫

大阪大学教授 信多 純一

多田源氏と石川源氏

大阪大学教授 黒田 俊雄

難波宮の歴史と天皇

大阪大学教授 長山 泰孝

西村天囚と懷徳堂

大阪大学教授 梅溪 昇

。「懷徳堂の先賢を顕彰する集い」

十月二十五日(月)午後五時～六時。府立文化情報センターにて。

(特別講演)

懷徳堂と大阪大学

大阪大学名誉教授 宮本 又次

。秋季講座(第六十五回)

十月二十五日(月)～三十日(土)。

於府立文化情報センター。月々金は午後六時半、土は二時より。聴講者延七二四名。

〈中国文化と日本〉

「忠臣蔵」のシノロジー

大阪大学教授 日原 利国

孟子の遊説

京都産業大学教授 橋本 高勝

ことばの来住

関西大学教授 芝田 稔

抹茶の起源

大阪大学教授 布目 潮風

漢字の構成

大阪大学教授 吉田 恵

江南の旅

追手門学院大学教授 阿頼耶順宏

役員動靜

。天野利武評議員、昭和五五年一月一日逝去。

。昭和五六年三月三十一日、三隅隆幹事退任。四月一日、鳥野守

大阪大学文学部事務長、幹事就任。

。昭和五六年一月二十九日、理事堀田庄三、上野淳一、木村英

一、山村雄一、宮本又次、宮地裕の六氏任期満了。全員重任

決定。

。昭和五六年一月一日、梅溪昇、信多純一、斯波義信、田中

裕、日比野丈夫、日原利国、山田信夫、脇田修の八氏及び原

田敏丸大阪大学経済学部長、評議員就任。

。木村英一理事、昭和五六年一月一日逝去。

。昭和五七年一月七日、古田完幹事退任。本間道雄住友銀行秘

書室長、幹事就任。

。昭和五七年三月三十一日、宮地裕理事退任。

。昭和五七年四月一日、片山良展大阪大学文学部長、松下幸之

助氏、弘世現氏、理事就任。宮地裕氏及び水村博昭大阪大学

事務局長、評議員就任。

会務報告

昭和五十六年度懷徳堂記念会理事会・評議員会

一〇月二六日、適塾にて。

議事 昭和五十五年事業報告書收支決算書、昭和五十六年度

收支予算事業計画について。

今後の懷徳堂記念会のあり方について。

理事候補者の選出について。

評議員候補者について。

以上、いずれも原案通り承認された。

その他、欠員中の理事一名と評議員若干名の補充について

理事長に推薦を依頼することとなった。

昭和五十六年度臨時懷徳堂記念会理事会・評議員会

昭和五十七年三月二五日、住友銀行本店会議室にて。

議事 昭和五十六年度事業報告。

理事欠員二名の補充について。

評議員の補充について。

昭和五十七年事業計画と予算について。

以上、いずれも原案通り承認された。

昭和五十七年四月九日、堂友会委員中島・山口両氏と片山理

事、記念会と堂友会の今後について懇談。

六月一九日、堂友会委員中島・山口両氏と梅溪評議員懇談。

堂友会では会長を新選出せず、中島氏を委員代表、山口氏を

副とすることなど報告を受ける。

九月二三日、堂友会委員中島氏に烏野幹事より「懷徳堂の先

賢を顕彰する集い」の趣旨内容説明、他の委員への連絡を依

頼。「友の会」設立趣旨の説明。

一〇月六日、大阪大学文学部内役員と堂友会委員との懇談会

(於文学部長室)。出席は片山理事、日原・梅溪・山田・信

多評議員、烏野幹事、藤塚名誉書記、中島・山口・栗生・宮

内委員。今秋の行事と雑誌刊行についての報告の後、主とし

て「友の会」と堂友会の関係、堂友会の今後について話し合

った。

一〇月八日、堂友会委員中島・山口両氏と梅溪評議員、「友

の会」と堂友会の関係について懇談。

一〇月一五日、堂友会委員中島氏と烏野幹事、同伴について

懇談。

一〇月二五日、堂友会委員中島・山口両氏と日原評議員、同

件について懇談。

(岸田記)

永年にわたり懷徳堂及び本会の書記として精勵してこられた藤塚誠二氏が、昭和五十七年三月三一日をもって退職、名誉書記となられた。文字通り懷徳堂と共に歩んでこられた氏の功績と御苦勞に対し、心より感謝の意を表したい。なお、氏の多年の勞に対し、堀田理事長より感謝状が贈られた。

(堂友会記事)

雑誌発行

昭和五六年『懷徳』休刊。

見学会

。昭和五五年一〇月二七日、京都、住友の博古館で中国の古銅器を、藤井有隣館で中国美術工芸品を見学、有芳園を鑑賞した。指導は引き続き宇野茂樹氏。参加者一同、満腔の感謝を奉る。

。同一一月二四日、滋賀県大津と京都府宇治方面へ。円福院で国宝釈迦如来像・五百羅漢像を、建部大社で重文の三女神像を、石山寺で紫式部展を、禅定寺で重文の十一面観音像を拝観した。

。昭和五六年四月一二日、草津・野洲方面見学会。妙光寺山磨崖仏、大笹原神社、円光寺、宗泉寺、蓮海寺等を拝観。

。同七月一〇日〜一二日、滋賀・岐阜両県に跨り、国分寺及び同跡、円興寺、横蔵寺、日吉神社を廻った。

。同一一月二九日、滋賀県下日野方面で誓安寺、凡釈寺、光明院、金剛定寺、鬼室神社、十禅寺、比都佐神社等を廻った。

。昭和五七年四月二五日、滋賀県近江八幡市安養寺町莊嚴寺で釈迦如来立像と聖観音像を、日牟礼八幡宮では珍しい安南渡海船の絵馬の額を、興隆寺では弥勒仏の坐像、円満寺では十一面観音立像を拝観した。

。同五月一六日、奈良県橿原市の文化財研究所附属博物館で浜田青陵先生の展覧会を見学。午後は会員の同志社大学講師田

中嗣人氏の指導で元興寺の遺構を拝観し得て、極めて有益であった。

。同七月二四日〜二五日、志摩伊勢方面へ一泊の見学会。第一日目は志摩町和具の観音堂で銅造の如来坐像と仏頭を、伊勢二見町三津では明星寺で薬師如来坐像(久安元年の銘)を拝観。第二日目は伊勢玉城町の田宮寺に十一面観音像を二体続けて拝観し、両神宮では特別の御垣内参拝を許され、猿田彦神社と内宮では大神樂をも奏して頂いた。

会員関係

。計報として第一に木村英一会長が五六年一月一日に他界された。戦後、堂が阪大の管理下に置かれて以来、実に一方ならぬ御尽力に依って堂友会を今日の発展にお導きくださった功績は全くたとえようもなく大きく、感謝しつつ深くお悼み申し上げる。

。続いて五七年三月三〇日には重建以来の古い門下生として重きをなした中川幸三氏の御逝去に逢い、残念この上もなく、ほかに木金徳雄、米谷修、小松悦子、土屋隆一諸氏の御逝去を悼み、併せて深くご冥福をお祈り申し上げます。

。故木村会長、同夫人、沢美枝、山口正男、苗村末三郎、清水喜美子、阪本真里、中川藍子、別所一雄、楠本宗平、故中川幸三の諸氏には本会に深甚の御好意並びに多大な御寄付を賜わり厚くお礼を申し上げます。また、斯文会(東京湯島聖堂)の幹事の丸山正三郎氏から一〇〇万円の御寄付を賜わり、謹みて深謝奉る。(中島記)

中川幸三さんの思い出

栗生照子

伝統ある懐徳堂友会のお仲間に入れていただきまして、未だ五指を折る程の年数しかありません私に、追悼文をとの仰せに戸惑っております。

中川幸三様は私にとりましては、生字引きそのものでございまして。最初は、枚方市にあります「灌院の碑文」の読み方をおたずね致したのでございます。と、御自分も碑文をペーパーに書き写され、読み方は勿論、その章句となつた典拠の和歌等まで調べ上げて、教えて下さいました。

次に「紫微中台」についておうかがいした折には、始めは辞典等からの抜き書きを送って下さいましたが、二年程後になつて、滝川政次郎先生の論文が見つかったからと、全文をコピーして送って下さいました。感激でございました。

その後、書道史の講座を婦人会館で受けました時、東洋学者として又能書家としての内藤湖南先生を教えていたのだいことを申し上げますと、大そうおよろこびになり、直ちに、内藤湖南先生や敦煌に関係ある書籍を数冊お貸しくださいましたが、私には咀嚼し切れずにお返ししてしまいました。積極的に研学をモットーとする懐徳堂精神で精一ぱい努力せよとのお導きであったのだと、思い出しては申し訳なく存しております。

御老歸とは申せまことに惜しいお方を失いました。悲しい極みでございます。

昭和五七年二月二〇日発行

懐徳 第五一号

500 豊中市待兼山町一―一 大阪大学文学部内
編集 懐徳堂記念会
発行 懐徳堂
編集責任者・片山良展

600 京都市下京区中堂寺鍵田町二
印刷 株式会社印刷同朋舎
株式会社印刷同朋舎